

第2章 第3期計画の基本的な考え方

2-1 旭区の特性と福祉保健の状況

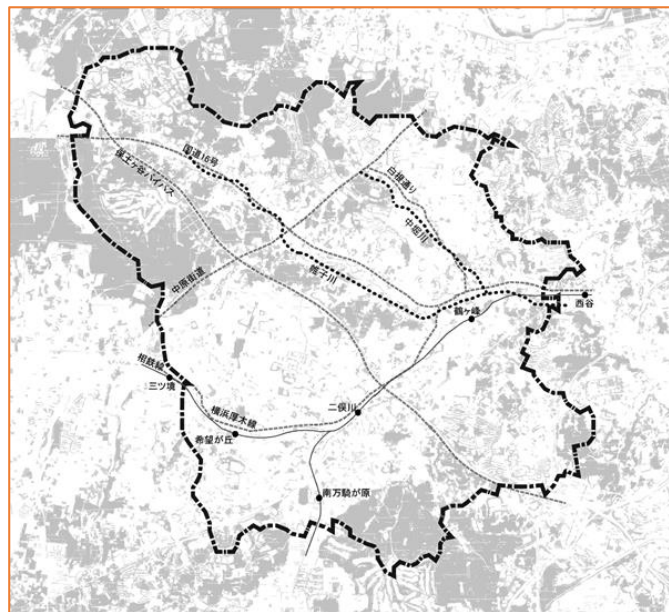
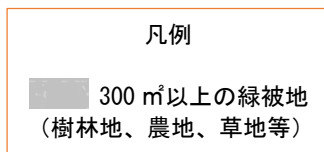
(1) 旭区の特性

旭区の道路網は保土ヶ谷バイパス、国道16号、中原街道等の広域交通幹線網が市街地を縦横断するように整備されており、鉄道網は相模鉄道が区域の南部を東西方向に整備されています。旭区役所から横浜駅まで、相模鉄道を利用して約20分、東京駅までは約50分という利便性を有しています。また、神奈川東部方面線（相鉄・JR直通線が2018年度予定、相鉄・東急直通線が2019年度予定）の開通による新横浜や東京都心へのアクセス向上が期待されています。

① 帷子川源流域の自然豊かなまち

旭区は横浜都心部に流れ込む帷子川源流に位置し、かけがえのない豊かな緑と幾筋の河川に包まれています。2014年3月末時点で市街化調整区域は約12.8km²と全体の約40%もあり、帷子川周辺や丘陵地に豊かな自然が残っていることが、旭区の環境の魅力のひとつとなっています（図表3）。

図表3 旭区の自然条件



【出典】環境創造局の緑被地データをもとに道路・鉄道・河川等を表示

② 区民の活動が盛んなまち

旭区には高齢や障がい関係等の福祉施設が多く、ボランティアやNPOなどによる福祉保健活動も盛んです。また、団地を中心に少子高齢化が急速に進んでいますが、文化・芸術・スポーツ等の趣味の活動を通じて生き生きと暮らす高齢者の元気な姿も目立ちます。

③ 地域活動が盛んなまち

自治会町内会は、住民相互の親睦や地域の諸課題を一緒になって解決し、明るく住みやすいまちづくりを目指す最も基礎的な自治組織です。旭区には19の連合自治会町内会、239の単位自治会町内会があります。区平均の自治会町内会加入率は市内5番目で80.4%（2015年4

月時点) となっており、市全体の75.5%を上回っています。

自治会町内会には防災・防犯・青少年育成・交通安全・環境美化等の「公益的事業活動・地域サービス」、運動会・まつり・サークル活動等の「親睦を深め、絆を醸成」、回覧・会議等の「情報共有・合意形成・利害調整」等の大きく3つの役割があり、具体的な課題解決に取り組んでいます。

旭区では、区民主体の地域運営や課題解決について、その基盤となる「地域のプラットフォーム」は連合自治会町内会が担っています。自治会町内会を中心に、地域の実情を踏まえ、地域の活動団体等が集い、課題解決に向けた話し合いや地域に必要な取組が実施されており、安全安心の住みよい地域づくりが進められています。それらの自治会町内会の様々な活動の推進の一つに「地域の福祉保健活動の啓発や増進」も含まれてきています。さらに、自治会町内会の活動が活発になることによって、自ずと多世代の交流や地域でのつながり・支え合いづくりが図られ、ひいてはそれが間接的にも地域福祉保健の充実に結びついてきています。

また、役員の高齢化や担い手不足等が顕在化している中で、これらの取組を通じて新たな担い手の登場、育成を進める活動も増えてきています。

(2) 旭区における人口・世帯等の状況

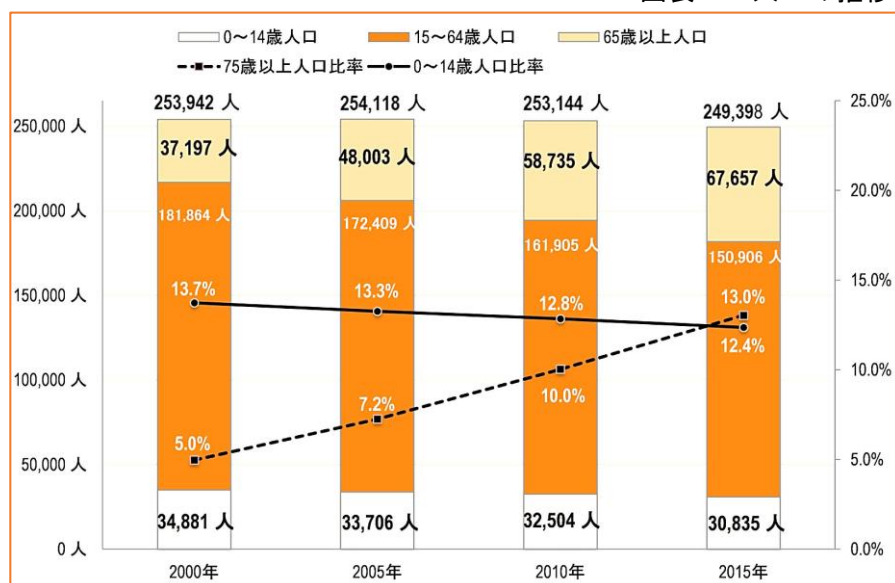
① 10年ほど前に人口減少社会に転換

旭区は、約10年前から人口減少社会に突入している点が大きな特徴です。過去15年間の5年ごとの人口推移をみると、10年前の2005年の約25.4万人をピークに人口減少に転じ、2015年には約24.9万人と約5千人減少している状況となっています(図表4)。

② 少子高齢化の一層の進展

年齢3区分別の人口の推移を2000年から2015年の15年間でみると、15~64歳の生産年齢人口は約18.2万人から約15.1万人と約3.1万人減少し、14歳以下の年少人口も約3.5万人から約3.1万人と徐々に減少しています。その一方で、65歳以上の高齢者人口は約3.7万人から約6.8万人と約3.1万人も増加しており、少子高齢化が一層進展していることがうかがえます(図表4)。

図表4 人口の推移

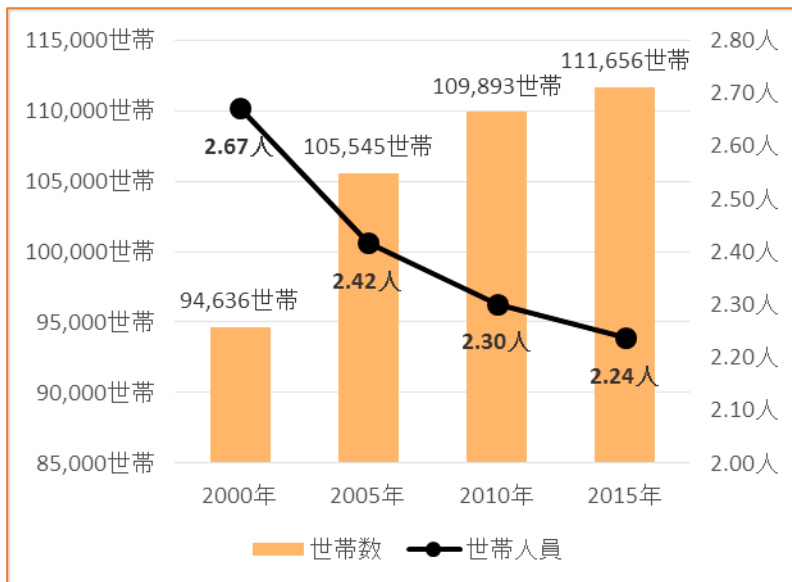


【出典】横浜市統計ポータルサイト「町丁別世帯と男女別人口」(各年3月末現在)

③ ひとり暮らし高齢者等・世帯の小規模化が進展

人口が減少傾向であるのに対し、世帯数は緩やかではあるが増加傾向を辿っています。また、平均世帯人員は2000年の2.57人/世帯から2015年には2.24人/世帯と小規模化が進んでいます（図表5）。三世代が同居する大家族や夫婦と子どもから成る世帯が減り、「ひとり暮らし高齢者」「高齢夫婦のみ世帯」「ひとり親と子ども世帯」等、世帯の小規模化が進んでいることが推察されます。

図表5 世帯数・世帯人員の推移

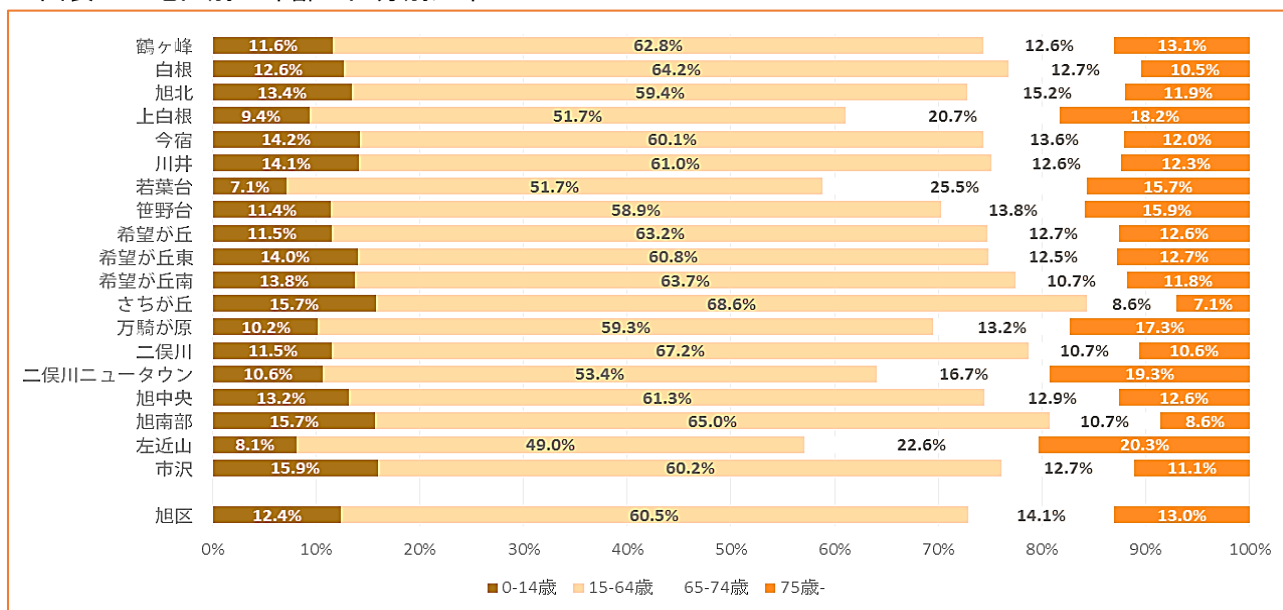


【出典】横浜市統計ポータルサイト 「町丁別世帯と男女別人口」（各年3月末現在）

④ 計画開発地を中心に高齢化が加速化

少子高齢化が進んでいる地区（上白根・若葉台・万騎が原・二俣川ニュータウン・左近山）は、いずれも計画的に整備された計画開発地で高齢化率は30~40%となっています。一方で、年少人口が多く高齢化率が20%以下と低い地区（さちが丘・旭南部）もあり、少子高齢化の動向も19地区別にみるとその進み方は多様であることがうかがえます（図表6）。

図表6 地区別の年齢4区分別比率



【出典】横浜市統計ポータルサイト 「町丁別年齢別男女別人口」（2015年3月末）

(3) 平成 26 年度区民意識調査結果から見える区民特性

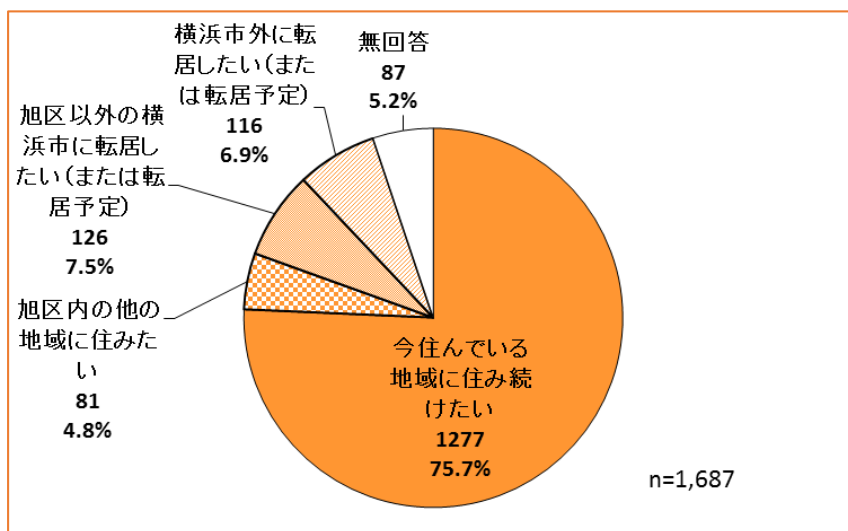
① 調査の概要

旭区内にお住まいのすべての方が安全・安心に暮らし続けられ、今後も住みよいまちづくりを進めるための基礎資料として活用することを目的とし、住民基本台帳・外国人登録原票を基に 20 歳以上の男女無作為抽出 3,000 人を対象に郵送によるアンケート形式で実施しました。調査期間は 2014 年 9 月 18 日から 10 月 6 日で、1,687 件の回答がありました。

② 強い定住意向

「今住んでいる地域に住み続けたい」75.7%、「旭区内の他の地域に住みたい」4.8%で合計すると 80%を超し、市全体の 60%と比べると定住意向が高いことがうかがえます（図表 7）。

図表 7 居住意向

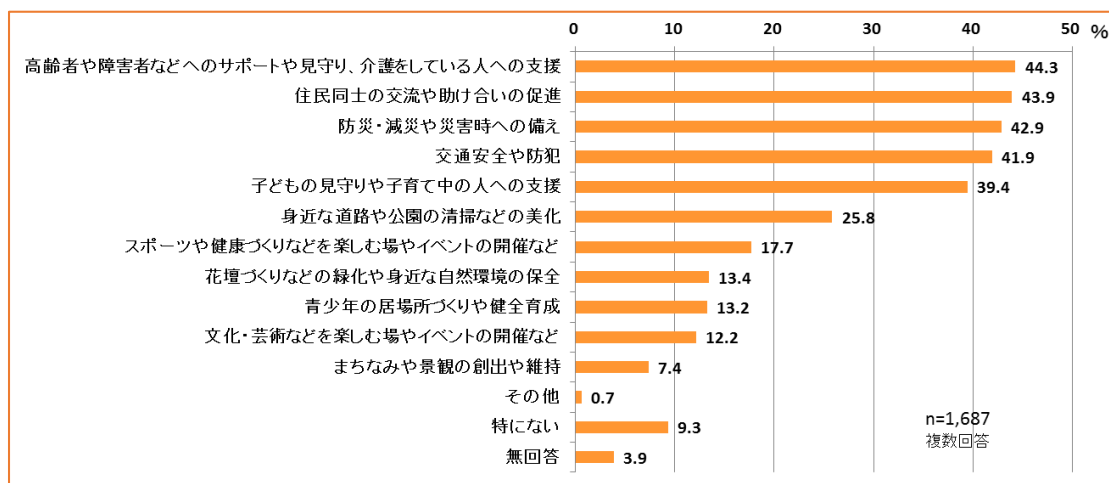


【出典】平成 26 年度旭区区民意識調査結果報告書

③ 福祉や防災・防犯は住民同士が取り組むべきもの

回答数が多かったものは、「高齢者や障害者などへのサポートや見守り介護をしている人への支援」44.3%、「住民同士の交流や助け合いの促進」43.9%、「防災・減災や災害時への備え」42.9%、「交通安全や防犯」41.9%、「子どもの見守りや子育て中の人への支援」39.4%の順となっており、福祉や防災・防犯への取組への意向が強いことがうかがえます（図表 8）。

図表 8 地域の住民同士が取り組むべきもの

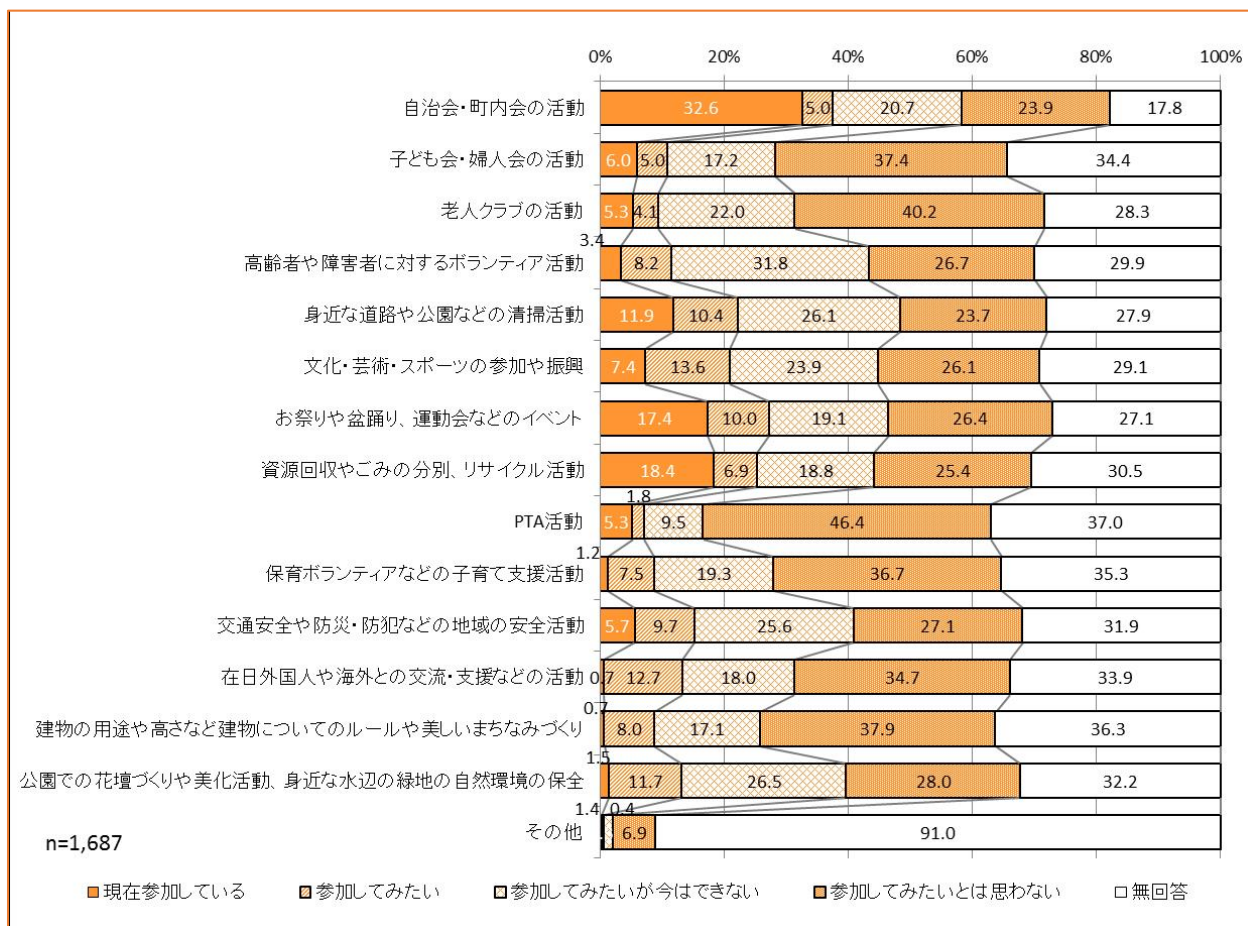


【出典】平成 26 年度旭区区民意識調査結果報告

④ 地域で参加状況が高いのは自治会・町内会の活動

地域で参加状況が圧倒的に高いのは「自治会・町内会の活動」32.6%です。続いて、「資源回収やごみの分別、リサイクル活動」18.4%、「お祭りや盆踊り、運動会などのイベント」17.4%となっています。また、今後参加してみたいものとして上位にあるのは「文化・芸術・スポーツの参加」、「在日外国人や海外との交流・支援などの活動」、「公園での花壇づくりや美化活動など」といったテーマ型の活動となっています（図表9）。

図表9 地域活動への参加状況及び参加意向



【出典】平成26年度旭区区民意識調査結果報告書

(4) 旭区における福祉保健の状況

旭区の福祉保健等の状況をいくつかの指標をとりあげ、市全体に占める比率等と比べてみると、いくつかの特徴があります。

- ・人口、子ども・子育ての指標については、横浜市に占める比率はおおむね6～8%となっています。
- ・福祉施設の指標については、横浜市に占める比率はおおむね8～15%となっており、障害者施設・高齢者施設の比率が高い傾向が見受けられます。特に、障害児者入所施設は定員比率で見ると市域の約20%を占めています。

【旭区福祉保健等状況の指標】

分類	指標項目	単位	旭区内	市内	対市内の割合	データ年次
人口	1 人口	人	249,398	3,722,428	6.7%	H27.4.1
	2 高齢人口（65歳以上）	人	67,657	850,165	8.0%	H27.4.1
	3 高齢人口（75歳以上）	人	32,516	390,582	8.3%	H27.4.1
	4 15歳未満人口	人	30,835	480,233	6.4%	H27.4.1
	5 ひとり暮らし高齢者（75歳以上単身）	人	8,681			H27.5.1
子ども・子育て	6 親子の居場所（注1）	か所	7	122	5.7%	H26.10.1
	7 認定こども園	か所 （定員）	2 (847)	18 (4,920)	11.1% (17.2%)	H27.5.1
	8 保育所	か所 （定員）	40 (3,106)	652 (53,463)	6.1% (5.8%)	H27.6.1
	9 家庭的保育事業	か所 （定員）	4 (14)	41 (171)	9.8% (8.1%)	H27.6.1
	10 小規模保育事業	か所 （定員）	5 (73)	87 (1,232)	5.7% (5.9%)	H27.6.1
	11 事業所内保育事業	か所 （定員）	1 (9)	2 (23)	50.0% (39.1%)	H27.6.1
	12 横浜保育室	か所	5	148	3.3%	H27.11.1
	13 放課後児童クラブ	か所	17	222	7.6%	H27.6.1
	14 幼稚園	か所	24	281	8.5%	H27.4.1
	15 小学校	校 （児童数）	24 (12,321)	341 (182,870)	7.0% (6.7%)	H27.5.1
	16 中学校	校 （生徒数）	12 (5,670)	146 (81,043)	8.2% (7.0%)	H27.5.1
	福祉施設	17 障害児者（施設入所）数	か所 （定員）	8 (335)	32 (1,685)	25.0% (19.9%)
18 障害者（日中活動事業所）数（注2）		か所	26	325	8.0%	H27.4.1
19 障害者活動支援センター（作業所）		か所	17	192	8.9%	H27.4.1
20 障害者グループホーム		か所 （定員）	101 (540)	646 (3,566)	15.6% (15.1%)	H27.4.1
21 地域ケアプラザ		か所	12	133	9.0%	H27.4.1
22 特別養護老人ホーム		か所	19 (1,731)	145 (14,420)	13.1% (12.0%)	H27.4.1
23 介護老人保健施設		か所	11 (1,289)	82 (9,565)	13.4% (13.5%)	H27.4.1
24 介護療養型医療施設		か所	1 (43)	10 (538)	10.0% (8.0%)	H27.4.1
25 老人福祉センター・老人いこいの家		か所	1	21	4.8%	H27.4.1
26 認知症高齢者グループホーム		か所 （定員）	27 (459)	291 (4,900)	9.2% (9.4%)	H27.4.1
その他		27 要介護認定者数	人	11,461	146,603	7.8%
	28 身体障害者手帳交付者	人	7,503	99,120	7.5%	H27.4.1
	29 知的障害者手帳交付者	人	1,955	25,447	7.6%	H27.4.1
	30 精神保健福祉手帳所持者数	人	2,025	28,285	7.1%	H27.4.1
	31 自治会町内会	団体 （世帯数）	239 (82,780)	2,881 (1,237,135)	8.2% (6.7%)	H27.4.1
	32 老人クラブ会員	クラブ （会員数）	150 (11,026)	1,668 (115,490)	8.9% (9.5%)	H27.4.1
	33 民生委員・児童委員	人 （現員数）	315 (332)	4,493 (4,654)	7.0% (7.1%)	H27.4.1
	34 保健活動推進員	人	357	4,389	8.1%	H27.5.1
	35 食生活等改善推進員（ヘルスマイト）	人	96	1,839	5.2%	H27.4.1
	36 スポーツ推進委員	人	224	2,629	8.5%	H27.4.1
	37 シニアボランティアポイント登録者数	人	901	10,951	8.2%	H27.4.1

（注1）親子の居場所；地域子育て支援拠点事業、親と子のつどいの広場、保育所子育てひろば、幼稚園はまっこ広場
 （注2）障害者（日中活動事業）；生活介護、就労移行、就労継続、療養介護、福祉ホーム、地域活動ホーム、生活支援センター

2-2 2025年の旭区を視野に入れた中長期な課題

(1) 2025年の旭区の姿

① 市の人口も2019年から減少へ

2012年12月に政策局が発表した将来人口推計をみると、2019年から横浜市全体でも人口が減少軌道に入るという予測がなされています。それによると、今後も人口増を持続する区は港北区等の5区、停滞か微減の区は戸塚区等の4区、旭区のようにすでに減少していて今後も減少を続ける区は9区に及びます。

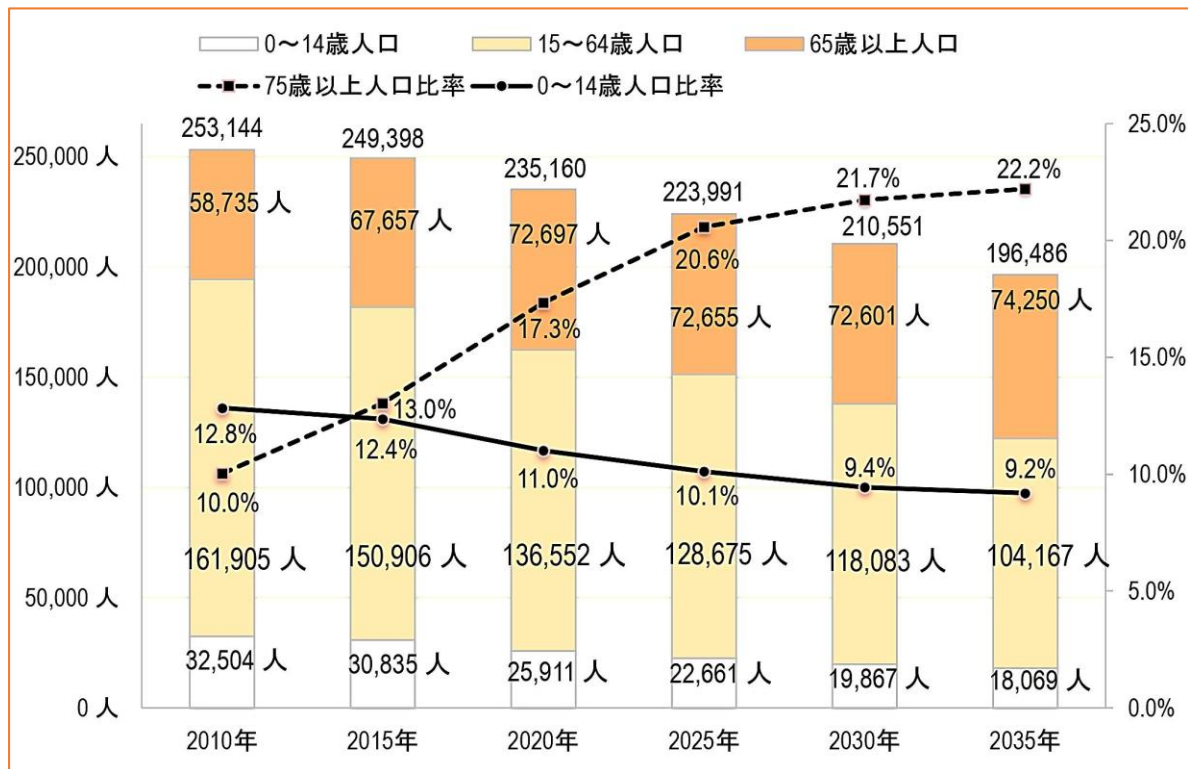
② 2025年の旭区は人口減少と少子高齢化がさらに進展

2025年の旭区人口は約22.3万人、高齢化率は32.4%、75歳以上の後期高齢者比率は20.6%、年少人口比率は10.1%と推計されています。団塊世代が後期高齢者になる2025年には、後期高齢者数が現在の約1.4倍になると予測されます(図表10、11)。そのため医療・介護・生活支援のニーズが増大するとともに質的なニーズも変化することが見込まれることから、今後10年間にわたって旭区の福祉保健の取組をどのように進めていくかが重要となります。

図表10 2025年時点の75歳以上人口及び比率の予測値

	2015年3月31日	2025年(推計値)	2025年/2015年
旭区人口	249,398人	223,991人	0.90倍
旭区65歳以上人口(比率)	67,657人(27.1%)	72,655人(32.4%)	1.07倍
旭区75歳以上人口(比率)	32,516人(13.0%)	46,095人(20.6%)	1.42倍

図表11 旭区将来人口の推計



【出典】2015年まで：横浜市統計ポータルサイト「町丁別世帯と男女別人口」(各年3月末現在)
2020年以降：横浜市将来人口推計

(2) 中長期的な主な課題

2025年問題とは、いわゆる団塊の世代が75歳以上になり要介護認定者数や認知症高齢者が増えることで、医療・介護・生活支援のニーズが増大するとともに質的なニーズも変化することが挙げられます。増大するニーズに対応するためには、従来の福祉サービスや介護保険サービスだけでなく、地域において住民やNPOによる多様なサービスを提供し、地域全体で支えることが必要となってきます。

こうした状況が予測される中、第3期の計画を2025年に向けた前半の5年間の計画として位置づけ、次のような課題について取り組み始めることが重要であると考えます。

① 各地区の地域福祉保健力の向上

少子高齢化は、旭区各地区で今後ますます進むことから、自助・共助・公助の組み合わせを適切に行い、各地区の地域福祉保健力の向上をめざすことが重要となります。

そのためには、地区、関係機関、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会、区役所それぞれがこれまでに築いてきたネットワークを活かした上で、さらに連携を強化する必要があります。

② 地域で活動する担い手を増やす取組

これまで地域で福祉保健等、地域活動の担い手となっていた方が高齢化し、後継者の不足が深刻化しています。その一方で、支援を必要とする方は増加しており、増大するニーズに対応するのが難しくなっています。

このため、誰もが気軽に福祉保健の取組に参加できる仕組みや風土づくりを進めるとともに、旭区のボランティアや福祉保健推進活動に取り組んでいる人の活発さ等の特徴を活かしつつ、新たな担い手を増やす必要があります。

③ 地区でのつながりの更なる強化

支援を必要とする方への支援について、各地区での仕組みやつながりの広がりにより体制が整ってきましたが引き続き課題は多い状況です。地区の中でのつながりや地区と関係機関、行政等がさらにつながり、支援の網を張りめぐらせていく必要があります。

④ 健康づくりの取組の促進

区民が健康でしあわせな生活を送るためには、地域とつながりながら一人ひとりが健康づくりに取り組むことが重要であり、活動の場を各地区で広げていく必要があります。

2-3 計画の基本理念及び位置づけ

(1) 基本的な考え方

2025年問題を念頭に10年後の旭区の地域福祉の姿を見据え、そこにいたる前半の5か年(2016~2020年)の計画を策定します。

この計画は、旭区で生活・活動している「すべての人」が健康でしあわせな生活を送れることをめざし、行政はもとより区民をはじめ、地域の中で住みよいまちづくりに取り組まれている自治会町内会・社会福祉協議会・地域ケアプラザ・福祉施設・各種団体等が協働し、共に力を合わせて取り組むものです。

① 区の特徴を反映した基本目標の設定

基本目標は、旭区の特徴である、「元気な高齢者が多い」「障がいのある方や障がい者福祉施設が多い」「養育支援を必要としている家庭が多い」という状況を踏まえた上で、区全体の地域課題から旭区に必要な3つのキーワード「参加しよう」「つながろう」「元気になろう」を設定しています。

② 具体的な方策としての3本柱

基本理念と基本目標を掲げ、基本目標を達成するための具体的な方策として、区の特徴や地域課題を踏まえた3本の推進の柱を立てています。

③ 区全域計画と地区別計画の連動

区全域計画と19の地区別計画はそれぞれ地域・区役所・区社協・地域ケアプラザ等が主体的に取り組む行動計画であり、相互に連動して策定・推進することを基本とし、旭区ならではの地域福祉が一体的に推進されることを目指しています。

(2) 基本理念・基本目標

【基本理念】

地域で支え合い 健康でしあわせな生活を送れるまち 旭区をつくろう

顔の見える関係づくりができた地域の中でお互いに支え合いながら、健康で幸せを実感できる暮らしを実現し、誰もが安全・安心に住み続けられる旭区をつくりあげることを目指します。

【基本目標】

参加しよう！つながろう！元気になろう！

- 人と人のつながりを大切に福祉保健の取組で旭区をもっと元気に
- 自助・共助・公助の組み合わせで誰もが健やかで安心して生活できる旭区をつくろう
- 幅広い区民参加でネットワークを広げ、地域福祉の力を高めよう

(3) 計画推進のための3本の柱

① 計画推進の柱1：地域の福祉力アップ

■目指す姿：地域住民、各種団体、福祉施設等がつながって地域活動を推進し、課題解決に向けた活動の活性化が図られている。

■主要な取組：旭区に多くある福祉施設や事業者、地域住民、各種団体、公的機関のネットワークづくりを進めます。

■施策骨子：この柱は、地域住民が主役となり地域課題に取り組むための基盤をつくることをねらって、次の3つの中項目を掲げます。

- ア 地域の実状に応じた取組
- イ 地域・関係機関・行政のネットワーク強化
- ウ 福祉保健の啓発の推進

② 計画推進の柱2：安心して自分らしい生活ができる地域づくり

■目指す姿：日常的なつながりにより、見守りの目が増え、必要な時に助け合う事ができる地域になっている。

■主要な取組：身近な地域の変化に気づき、いざという時に連絡を取りあえる見守りネットワークを構築します。

■施策骨子：この柱は、支援を必要とする人が的確に支援へつながる仕組みをつくることをねらって、次の5つの中項目を掲げます。

- ア 見守り体制の充実、孤立予防
- イ 認知症をみんなで支えるまちづくり
- ウ 権利擁護事業の推進
- エ 災害時における要援護者の支援体制の充実
- オ 生活に困難を抱える方々への支援

③ 計画推進の柱3：地域の取組で元気力アップ

■目指す姿：子ども、障がいのある方、高齢者すべての人が地域活動の取組により健康で暮らしやすい自己実現の可能な旭区になっている。

■主要な取組：子どもの頃から地域活動に参加し、誰もが地域の一員として担い手となる場を拡大します。

■施策骨子：この柱は、幅広い市民参加から地域福祉保健の取組が広がる仕掛けをつくることをねらって、次の4つの中項目を掲げます。

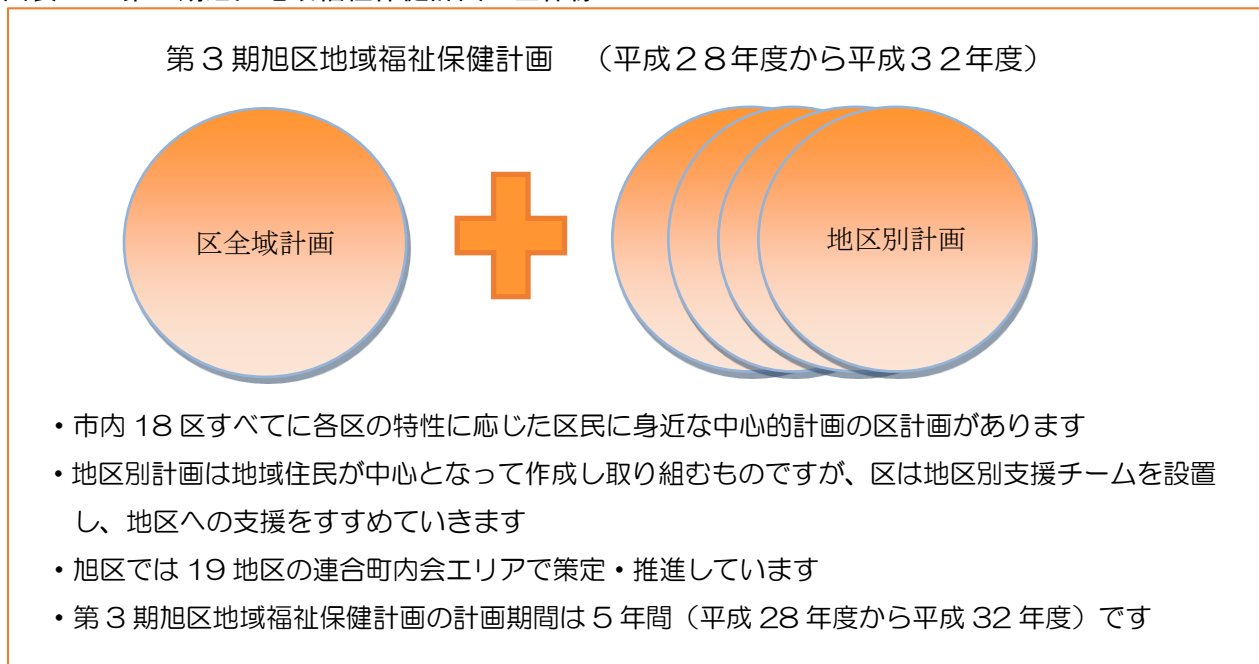
- ア 健康づくりの多彩な促進
- イ 子どもたちが健やかに育つまちづくり
- ウ 意欲や経験を発揮できる場と出番づくり
- エ 福祉保健人材の育成・ボランティアの応援

(4) 区全域計画と地区別計画の位置づけ

第3期旭区地域福祉保健計画は、区全域計画と19の地区別計画から構成し、双方の連携を積極的に進めます。

- ◇区全域計画・・・区全体の共通課題、基本理念や基本目標を実現するための取組、地区だけでは解決することが難しいことを支援するための取組をまとめたもの
- ◇地区別計画・・・地区が主体となり、目指すべきまちの姿や地区の様々な課題に対する取組をまとめたもの

図表 12 第3期旭区地域福祉保健計画の全体像



(5) 福祉保健に関する分野別計画との関係

横浜市には、各法を根拠とする福祉保健の分野別計画として、「横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（老人福祉法、介護保険法）」「横浜市障害者プラン（障害者基本法、障害者総合支援法）」「子ども・子育て支援事業計画（子ども子育て支援法）」「健康横浜21（健康増進法）」があります。

図表 13 他の分野別計画との関係

地域福祉保健計画は、市計画・区計画ともに、地域の視点から各分野別計画の取組の方向性を横断的に捉え、それぞれの計画の対象者を含む住民全体の地域生活の充実を図ることを目指すものです。

